

ハイビジョン番組制作の実際

全国プラネタリウム研修会・2008宗像
番組制作分科会研究発表

カガクノヒラプロジェクト
小林 道夫

なぜハイビジョンフォーマットなのか

- 現状手軽に製作できる範囲で最も高解像度であること
 - 1920 × 1080ピクセルの高解像度(DVDの約4倍の高精細画質)
 - 十数メートルクラスのドームスクリーンでも実用画質を確保できる
- 非常にジェネラルな規格であること
 - ドーム投映が手頃になった(ハイビジョンプロジェクタの低価格化)
 - 製作環境が手頃に構築できる(ハイビジョンビデオカメラの普及、パソコンの高性能低価格化)
 - 再生環境の多様化(プロジェクター、大画面テレビ、PC + モニターの使い分け)
 - ダウンコンバートで従来メディアへも展開(ネット配信、DVD化等)

制作に必要なもの～パソコン

● ハードウェア

- パソコン CPU Core2Duo 2GHz以上、メモリ2GB以上、外部グラフィックチップが望ましい
- Windowsでメーカー品ならBlu-ray Drive内蔵のSony VAIO type R master(上位機)一択
- Macならば理想はMac Proだが、iMac 24インチでも実用に
- いずれにしても24インチWUXGA(1920×1200)以上のモニターは必須
- VAIO以外のWIN機またはMacはできれば外付けBlu-rayドライブ(やはりディスクメディアはハンドリングが容易)

● ソフトウェア

- MacならFinal Cut Pro(Expressでも不自由しない?)
- WindowsでVAIOなら付属のAdobe Premiere Pro、他ならCanopus EDIUS NeoかPro4
- Blu-ray Discオーサリングソフトは必要に応じて

制作に必要なもの～ビデオ、他

● ハイビジョンビデオカメラ

- 業務用を除くとセミプロ＆ハイアマ向けと家庭向けに分かれる
- セミプロ＆ハイアマ向けはお好みで
- 家庭用は小型軽量で画質も充分(望遠鏡に取り付けも可能)
- ただしAVCHD(HDD、DVD、メモリ記録)はまだまだ編集が大変！
HDV(テープ)モデルを
- 互換性重視ならSONY HDR-HCx、画質重視ならCanon iVIS HV20,30
- 長時間予備バッテリー、ビデオ用三脚、ワイコンは必須

● その他、あれば便利なもの

- Digital Audio Workstation(オーディオ編集専門のソフト)
- ロイヤリティフリー音源
- すでにプロジェクターが導入されていると嬉しい
- 大画面テレビでチェックできるとなお嬉しい
- お金と時間と体力と(略)

作例：世界天文年プロモーションビデオ（勝手版）

- イタリア取材の素材を使った作例
 - ガリレオが実際に世界初の望遠鏡による天体観測を行った地、パドヴァを中心に
 - パドヴァには観測を行った塔門、住んでいた家、教鞭をとった教壇などが現存
 - 他にも中世から残る建造物や美術品が多く残る、アカデミックな都市
 - パドヴァ以外にも、フィレンツェ、ピサ、アルチェトリなどを取材
- カガクノトラ制作コンテンツは？
 - 6月の全国大会にデモ版、年内に完成版を目指して
 - 公のものにはできるかぎり協力したいと思っています

なぜ自主製作するのか？

- オリジナルの必要度とコストの天秤
 - オリジナルが必要だが、外部プロダクションに発注する予算がない？
 - 外部プロダクションでは痒いところに手が届かない？
 - 外部プロダクションのコストパフォーマンスに疑問？
- 誰が何の専門家なのか？ ~ 役割分担の議論も必要
 - プラネタリウム運営に関わる人達は、何屋さん？
 - 施設管理者、天文研究者、コンテンツクリエイター、イベンター、接客業、解説員、メンテナンス、etc...
 - その仕事は組織にオーソライズされていますか？
 - 個人レベルの頑張りが、労働条件の悪しき前例にならないように
 - 施設によって求められるものは大きく異なるのが現状
モデルケースの提示などで労働環境の改善を